

未来のリーダーたちと過ごした暑い夏 – JENESYS 随記一

Hot summer days with Future Leaders -JENESYS 2010 Community Design-

text_abe

7月9日から19日にかけて行われた JENESYS Programme 「21 世紀東アジア青少年大交流計画」の Community Design 部門に西村先生、阿部先生他学生4名が随記、参加しました。

July 9 to 19, Prof.Nishimura, Assitant Prof.Abe, and 4 graduate students participated in JENESYS Programme(Japan-East Asia Network of Exchange for Students and Youths)2010 Community Design.

7月9日から19日にかけて、D1 ナッタポン、M2 櫻庭・阿部・黒川の4名は阿部助教の引率の元、独立行政法人国際交流基金の JENESYS Programme 「21 世紀東アジア青少年大交流計画」 Community Design 部門に随記しました。今回のプログラムは、タイ、マレーシア、韓国、中国、オーストラリア等の東アジア首脳会議 (EAS) 参加国各国からの研修生が日本のまちづくりを学ぶという趣旨で、東京・京都・高山・白川-五箇山・八尾・金沢を訪れ、まちづくりの現場を見学しました。

都市デザイン研究室のメンバーは主催側のアシスタントのようでもあり、また日本からの参加者としてより活発な議論を促す存在として参加しました。序盤は梅雨のあいにくの空模様で予定が狂わされる場面もありましたが、実際にお住まいの町家を見学させていただいたり、五箇山ではメンバーと共に合掌造りの民宿に宿泊する等、我々としても貴重な体験を数多くさせて頂きました。



D2 パンノイ ナッタポン

▲高山にて、まち歩きの結果を発表



▲行政の方々から手厚い説明を受けながら八尾を歩く

全行程中にチーム毎にまち歩きした成果を議論するワークショップも開催され、西村先生、地元の行政、まちづくりに関わっているの方々の前で発表する機会もありました。学問的背景だけでなく、文化的背景の異なる中で多くの議論をした経験はかけがえのない財産になったと思います。

JENESYS Programme の参加を通じて、都市デザイン研究室のメンバーは様々なまちづくりの先進地域を訪れることが出来、地元の方々のお話を伺う等、有意義な時間を過ごすことができました。

何より貴重な体験だったのは、外国人研修生との議論を通じて「町並み保全の難しさ」や「地域の資源の発見」等、普段我々が当たり前だと思って見落としてしまうようなことを再び考えさせられたことです。今後も積極的に国内外問わず、他分野の方々和他流試合を行っていきたく感じました。

JENESYS Programme は、私にとって留学体験のようなものでした。アジアの若手研究者と共に、日本の歴史的な町並みを有する都市を巡ったのですが、日本の都市を見てはいるものの (初めて訪れる都市もあったため)、全て彼らの目を通して見ているため、日本ではないような感覚になり、他では得難い体験をすることが出来ました。

特に、「保全するための主体の関係性」に関して、異なる国の背景や文化を持つアジアの国々との議論は刺激的であり、改めてまちづくりの難しさも感じました。10日間行動を共にしたことで国境を越えた友情も芽生え、最後には皆が「日本の都市を見ることが出来てよかった」と口々に言ってくれました。

今度は、私が彼ら彼女らの国々を訪れ、異国の地で都市への思いを、皆にぶつけることができる日が来ることを願います。



M2 黒川 佑人

▲金沢でのワークショップ後、先生方と記念撮影

オランダの都市デザイン

Urban Design in the Netherlands

オランダ在住の笠真希氏を講師に迎えて、特別レクチャーが開催されました。なかなか触れられない他国の事情に触れられる貴重な機会でした。

D3 鈴木 智香子

去る7月15日(金)、オランダ在住の笠真希氏(デルフト工科大学客員研究員)による「オランダの都市デザイン」についての特別レクチャーが行われました。

ご自身の博士論文や現地での暮らしをもとに、オランダの地理的特質、都市計画の歴史、「都市デザイン」の仕組みや現地のプロジェクトについて、お話いただきました。

オランダの「都市デザイン」は、日本のそれとは異なり、あくまでも「空間設計」で、都市計画と建築をつなぐために図面を描くこと、一方で協議などのプロセスも重視するのだそうです。また、職能が確立されていて、一般の方に「都市デザインを仕事としている」と言うと、誰しもが解ってくれるのだとか。

オランダの「都市デザイン」について学ぶとともに、日本の「都市デザイン」を改めて考える良い機会となりました。

プロジェクト報告



TAMURA-project
田村プロジェクト



TOMO-project
鞆プロジェクト

今号はワークショップを開催した田村PJと鞆PJの活動の様子をお伝えします！！



▲高齢者施設をヒアリング



▲活発な議論の交わされたWS

今年度田村PJのM1は田村市都路町を対象に、「都路まちづくり基本方針」の提案に向けて調査研究をしています。第3回目の現地調査として、7月7日から8日にかけて空間調査、ヒアリング調査、ワークショップ(以下、WS)を行いました。

WSは第1回の「都路の強み・弱み」の意見を踏まえた上で、「生活」「産業」「地域資源」の3カテゴリーに分かれ住民・行政の方々と共に、まちづくりのアイデアを出し合いました。懇親会に至ってもまだ白熱する議論の中で、思いも寄らないアイデアが沢山生まれました。住民の方々の都路に対する熱い思いに学生も頑張らねばと気を引き締め直しました。

これからはアイデアを元に、他地域の事例調査や資源の整理など、来年度からのまちづくり実験に向けた取り組みを行っていきたいと思います。

Information

7月・8月の予定

7月27～30日 ジュリー週間
7月31日 鞆PJ現地ワークショップII
8月1～5日 足助PJ現地調査
8月7～11日 鹿兒島PJ現地調査
8月13～15日 佐原PJ「盆ふえすた」

たなカー アイデア展開催！！
日時：8月2日～9月4日
場所：コミュニティ・カフェ「はなみずき」(東急柏ビル内)
内容：パネル・模型の展示
ワークショップ開催(予定)
詳細は <http://www.tanacar.co.jp>

受賞報告 続報！！

Award-winning news part.3

栃木県宇都宮市小幡・清住地区を対象としたまちの活性化・都市デザイン競技において、本研究室の川崎さん、OGの奥田さんが表彰されました。



▲博士課程の川崎泰之さん



▲研究室OGの奥田紘子さん

6月30日(水)に(財)都市づくりデザインパブリックセンターにより「都市づくりと景観行政講習会」が開催され、その中で第12回「まちの活性化・都市デザイン競技」の表彰式が執り行われました。

本研究室まちづくり大学院博士課程の川崎泰之さん率いる大成建設チームが(財)都市づくりデザインパブリックセンター会長賞を、本研究室OGの奥田紘子さん率いる竹中工務店チームが奨励賞を受賞しました。おめでとうございます！！

空間研 M1 木口 彩

M2 神原 康介



▲たたき用具を製作中



▲土間のたたき作業

茶屋蔵ワークショップ(以下、WS)は、鞆に住む人々にとって茶屋蔵が様々な活動や情報共有のプラットフォームとなることを目指し、茶屋蔵の活用設計、計画の過程内に多様な主体を巻き込むために今年度から開催している活動です。

7月17日(土)はそのWS第1回目として、地元から鞆建設さんを講師として招き、明石高専の八木先生と学生、東大鞆PJチームで茶屋蔵WS I「たたき用具制作&土間のたたき」を行いました。

明石高専の学生と東大生が2人1組でペアになり、各チームで手作りの「たたき用具」を制作した後、にがりと石灰を混ぜた土を各々のたたき用具で力いっぱい叩きました。最初は鈍かった音が徐々に「パーン、パーン」という音に変わっていきまし。暑中、土運びやたたきの作業で予想以上に体力を消耗しましたが、出来上がった土間空間は独特の味わいを醸し出しており、今までにない満足感の得られたWSでした。

編集後記

阿部 正隆

JENESYS Programme に随行するという機会に恵まれて、数多くの貴重な経験、新たな友人との出会いを持ってたことに大変感謝しています。マガジンとしては伝えたいことが多く、文字情報が多くなり過ぎてしまいましたが、気持ちを汲み取って頂ければと思います。そして、いつの間にか！！早くも学生最後の夏になってしまいました。今しか出来ないこと、プロジェクトに、修論に、邁進したいと思います。